

令和2年 7月 9日

帯広高等看護学院

学院長 菊池 英明 様

学校関係者評価委員会

委員長 松田 亜由美

## 学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員会委員（五十音順 敬称略）

- ① 金元 信子      公益財団法人北海道医療団 帯広西病院 看護部長（第5期卒業生）
- ② 松田 亜由美    北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 教務部長
- ③ 光 恵子      帯広厚生病院 看護部長

#### 2 学校関係者評価委員会

- (1) 令和2年6月12日（金）書面開催

#### 3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

## 別紙

### 自己点検・自己評価結果について

#### 各評価項目について

#### 1. 教育理念・教育目的・教育目標

○教育目標の筆頭には、対象の権利が擁護されるための倫理的判断を設置され、貴院の教育への願いが込められている事を理解した。加えて、自治体立の看護学校としての責務を果たすために、地域包括ケアシステムを視野に入れた教育内容が、随所に配置されている事、教科外活動も取り入れ、ボランティア活動、地域との連携が示されている。以上のことから、教育理念が教育目的、教育目標に反映され、合理的であることが理解できた。

○卒業時の学生像は目標としては高く、卒業時に到達は難しいと思うが目標を下げて妥協はできない、このような状況を望む。

#### 2. 教育課程経営

○看護倫理教育に最も力を入れていること、通年にわたり教育内容をデザインされていることが伺える。看護倫理教育に関して、カリキュラムデザインの図示した資料があれば、学生にも更に説明しやすく、教育理念として根付くことになると推察する。

○教育課程を経営する教職員の人材育成については、とかく専任教員に主眼が置かれるが、事務職のマンパワーと質が、教育課程経営の質を左右すると言っても過言ではない。事務職員のキャリア支援とそのための財源確保についても、示されることを願う。

○臨床実習は大変重要で、現場、特に厚生病院との協力体制が整備されているのは、学生にとって非常に良い環境と思われる。

○安全対策、医療安全教育も近年は必要な内容で対策がとられており良いと思う。

#### 3. 学生の受け入れと入試広報

○学生の受け入れは、教育理念を遂行するためのスタートであり最重要課題となっている。2～3年と言わず、毎年の評価と学生確保対策が求められるが、入試広報部などの設置を構えた看護師養成所などを見聞きしたことがない。これもまた、事務と教員双方での、業務分担と協働事業の柔軟性が求められると思う。入試広報活動の委員長や業務分担が、固定的であれば変更することで、新しいアイデアが創造されると思う。

○学校としてのカラーでアプローチできると良いと思う。

#### 4. 学生生活の支援

○学生生活支援委員会を設置し、学生が適応するために、多様な支援をしていることを理解した。本業務はベテラン教員が主となり、若手教員の指導やサポートをしている点についても触れている。本業務を委員会として設置し、見える化していることに教育理念の具現化が伺える。加えて、経済的基盤となる情報提供（奨学金など）とサポートの実践についてもこの領域となると思われるので、加筆されるべきと思う。

○学生生活支援は職業人としての基礎となると考え、大変重要である。健康管理できる能力は学生のうちから身につけていきたいと思う。

#### 5. 社会貢献と情報開示

○社会貢献については、御校の教育理念に基づいた 50 年の歴史が途切れることなく、看護師を輩出していることそのものが社会貢献である。

#### 6. 自己点検・自己評価体制

○自己点検・自己評価について、過去の評価も含めて、ホームページで拝見できるのかどうか、確認できなかった。ホームページのレイアウトを工夫されると良いのでは。

#### 教育の実施報告について

○病院の移転による、実習環境の大きな変化に対応するのみならず、これを機に地域の病院を開拓され、教育効果を高める配慮をされている。これを拝見すると、次期カリキュラム改訂の教育内容を見込んでの取り組みであることが理解できた。

○看護師養成所 3 年課程の教育は、教育理念の具現化と同様に、看護師国家試験の合格と 4 月 1 日には、看護師籍を取得していることが、重要な到達目標である。入学前の準備教育から、それが意図的、目的的に展開されていることを、各学年の教育実績の資料から類推することができる。

その結果は、高い国家試験合格率で証左されている。

○看護職の働く場所は広がってきていて、様々なコーディネートする役割が求められている。急性期の実習が多かったため地域にも広がったのは良かったと思う。

○実習の方法について、従来通りの看護過程の展開をしていく上で在院日数が短縮される中では、同じ方法をとっていくのは困難と思う。

○専門学校は、看護師養成のためにあるので臨床に出てきた時に療養上の世話をやや自立するようになるまで教育できると良いと思う。それと、仕事をするという事についてと、できない自分を見つめ、認め、前に進んでいける人材が育成できることを期待する。